

# さいたま市教組新聞

編集・発行

さいたま市 教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区 吉敷町4-93-5  
大宮教育会館 2F  
TEL641-6763  
FAX648-3567

## 奪われる子どもも 壊される学校 大規模校解消はどこへ行った? 日本最大の義務教育学校

### 未だ現場が知らない 「義務教育学校」

さいたま市武蔵浦和駅周辺地区に巨大な義務教育学校ができる。驚くような新聞報道があったのは、2021(令和3)年1月のことでした。沼影小、浦和大理小、内谷中の二小一中を統合し、三千人規模の日本最大級の中小高一貫教育学校をつくる、市民の熱い現場には未だ何の説明も行われていないままです。

昨年11月に次いで、今年5月に南区で学校説明会が4回開かれました。いずれも開催はわずか1時間。毎回参加者から強く延長を求められるも、質問に答えきれずに終了する事態となっていました。

今回の説明会では、今年度から浦和大理小小学校の敷地に屋内プールをつくり、沼影市民の代替として併用するという計画が新たに示されました。

元々は沼影地区の大規模解消が目的だと思われたこの施設は、大規模解消と全く関係のない豪華な超巨大

和大理小②)と、小5から中1と中2から中3の子どもたちが3つに分かれて入る新校舎③④⑤の、5つのユニットから構成されます。

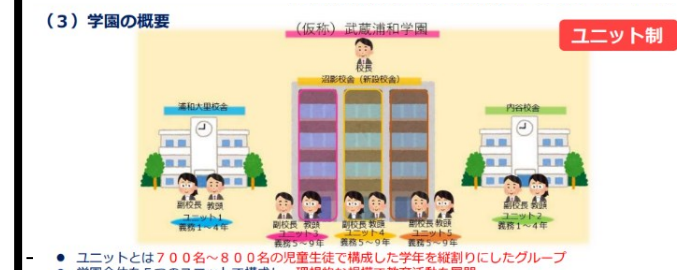
一貫校といっても9年間同じ校舎で過ごせるわけではなく、これまでであった学校が真横に切断されて沼影地区に点在することになります。

さいたま市教育委員会の説明によると、義務教育学校の子どもは人数は3600人、校長は一人、教職員は163人、それぞれのユニットに副校長と教頭を配置し、9年間を見通した一つの学校教育目標を設定する新しい種類の学校だとしています。

「義務教育学校」は小中一貫校だとされていますが、実際には小1から4年生用の校舎が二つ(現内谷中①と現浦和大理小②)と、

今回の計画では学園全体の通常学級数は105学級、同じ校舎に入る沼影新校舎だけ見ても57学級です。過大規模校の問題を解消するため日本最大の学校をつくることは、普通に考えれば選択肢になり得ません。

### きめ細かく効果的な指導を実現するユニット制を導入したアットホームな学園



- ユニットとは700名~800名の児童生徒で構成した学年を縦割りにしたグループ
- 学園全体を5つのユニットで構成し、理想的な規模で教育活動を展開
- 学園全体に校長1名、ユニットごとに副校長1名、教頭1名を配置し、きめ細かく効果的な学校運営が行われる体制を研究

【適正な規模での教育活動】各ユニットが800名程度となることで、適正な規模での教育活動を実現!

【交流活動の活性化】ユニット内の縦の交流、ユニット間の横の交流など、多様性に富んだ交流活動を実現!

「日本一現実味が無い計画、工期は予定通り小中一貫教育の研究者である和光大学山本由美氏は、このさいたま市義務教育学校の計画につ

いて「今まで見た中で最も現実味が無い計画」だと感想を述べ、具体的なシミュレーションや教育の根拠がないこと、計画化が早すぎることを指摘しています。実際に、昨年11月に行われた説明会では、容易に想像される課題に対して市教委は「今後検討する」との回答を繰り返しました。半年後の今年5月の説明会でも回答に大きな前進はなく、「半年もたっていないのに」と市民から失望の声が聞かれました。

一方、市教委は昨年11月から一貫して、工期を延長しないことを明言し続けています。義務教育学校は令和10年4月開校予定、沼影新校舎の建設用地のため沼影市民プールは来年4月から解体工事に入るとされています。

**前例のないユニット制**

ユニット制は法的な根拠も基準もなく、全国的に見ても導入している学校は一つもありません。

市教委は、ハリーポッターの魔法学校のイメージだとし、議会でユニット制を「我々が文部科学省にもお示ししている」と、「教育課程を大胆に組むことにより、時に横断的なダイバーシティや、縦断的なダイナミズム等を組み合わせながら教育活動を展開していく」と回答したようですが、専門家からは実現の可能性が低い計画だと指摘されています。ユニット間交流は教員負担を増やすだけ

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
基本設計	■							
実施設計		■						
沼影新校舎建設							■	校舎整備
現沼影小 解体								
大理小内谷中改修							■	夏休み中心
沼影プール解体		R4.6屋外プール解体		R7.7屋内プール解体				
大理小新プール建設		基本計画・設計・建設等		R7.8棟 市民プールとして併用開始				

か形骸化があるだけ、類似のつくば市(クラスター制)もすぐに破綻しました。しかもさいたま市のユニット制は割り切らずに、今まで見た中で最も現実味が無い、と言われる所以です。

児童生徒3600人に対して、校長一人だけというの大きな問題です。災害時や感染拡大時、慎重を期しない教育相談の事案などに最終判断をする際、常駐していない校長に、迅速かつ実態をふまえた判断ができるでしょうか。説明会最終日の5月28日、ようやくユニット制の具休について口頭で説明がありました。図書棟、校長室、事務室、保健室、体育館や武道場、給食室等は全体で一つを想定している、クラス替えはユニットをまたぐことがあ

る、入試で不利にならないようにする、などです。これらが最善な方法か疑問が残るところですが、やっと示した具体例さえ「今後しっかりと検討していきます」と、最終的に

は言葉を通しました。これは「義務教育学校では、よりきめ細やかで効果的な指導を実現しアットホームな学園生活が日々展開されるいま、す」とくり返される説明に、市民からも、美辞麗句でなくデメリットをきちんと示してほしいと、4日間を通して何度も声が上がりました。

ユニット制導入は、「これは超超大規模校ではありません。各ユニットは800人です。適正規模です」と、批判をかえすための奇策ではないでしょうか。

**4・3・2制って何?**

今計画されている義務教育学校では小1から小4、小5から中1、中2・3で、9年間を三つに区切る計画されています。

小1から4年生の学校では委員会の活動がなく、高学年が彩ってきた豊かな活動が失われるでしょう。代わりに教員員の負担が増すことは必須です。児童会活動や運動会などの行事で自治の力を育むことも難しくなります。

また、沼影新校舎では小5、6年生が中学生の生活に投げ込まれます。休み時間以外で伸び伸び遊ぶことも難しくなり、50分授業、中学校の先生による教科担任制、定期テストの実施などもどうなるか心配です。中学生と同じ制服を着て、同じ生活を強いられるので、同じ生活のことには触れられていません。

**小学校の卒業式がない?!**

**懸念される小6問題**

小中一貫校で懸念される大きな問題の一つは、小学6年生の卒業式がないことです。小学校は「心の原風景」であると言われます。卒業式がな

いということは、ただ「式典がひとつなくなる」とではなく、そこに至る日々の温かなふれあい、豊かな子ども期、新しい生活への励ましなどが奪われるという事です。

これまで大規模義務教育学校をつくってきたつくば市では「中1ギャップ」は解消しているが、新たに小6問題が顕在化している」として、教育長が5校目の義務教育学校はつくりたくないと言っています(2019年)。東京東久留米市では、学校統廃合後、子どもたちが広い意味での「心的外傷」を負い、不登校や「荒れ」が見られたそうです(2007年)。

「地域の人たちに成長を見守られながら、高学年を見て育ち自分も高学年になったら頼りにされるようになりたい」と感じる、そうした貴重な機会が奪われるとしたら、その傷は計り知れません。子どもは安定した成長発達に小学校の「原風景」の持つ意味は大きいと言われます。

肝心な大規模校の問題は放置

大規模校の問題を考える上で、学年規模は重要ですが、今回の「義務教育学校」の小1から4年生は6学級並行となり、過大規模校と同じサイズのみならず、毎年のクラス替えまで、同じクラスだった子はたった4人ほど。とても「アットホーム」とはなりにくい状況です。学年の教員からしても、200人の子どもたちの様子を共有して支援するのは困難で

す。学年で打合せをしようにも、なかなか全員そろいません。これでは、「義務教育学校」ができて、大規模学校の問題は放置されたままになってしまう。

**安全に通えるの？**  
**通学路の心配**

義務教育学校の多くは、通学路で学校をなくさないためにつくられてきました。全国的に大規模義務教育学校は少数ですが、すでにそこでは、児童生徒が歩道に入りきれず、道路いつぱいにはみ出すなど危険な事例が報告されています。

市の計画では、地域の中学生・高学年2千人が一斉に沼影新校舎に向かう中、小さな子どもたちは別方向に登校します。中には通学路が長くなる班、1、2年生だけで組む班も出てくるでしょう。実際に武蔵浦和駅をまたぎ田島通りを超えて通学する班もあります。沼影地区は道路の幅が狭いのに、と説明会で心配の声が上がりました。

教育委員会はこの件も今後検討するとし、学区案は令和7年度までに決定するとしています。

**教職員の仕事は膨大**

義務教育学校では、どの校舎もこの特異なシステムのもと、年間計画や行事の検討、広い居住地からくる子どもたちの通学班の編成、学級編成、時間割作成などを全てゼ口から行わなければならないです。同時に全ての校舎で教材、備品、机椅子、はたまた跳び箱、バスケットゴールなど、あらゆるものの移動や整理に膨大な手間とお金がかかると思われまます。開校予定は、たった5年後、令和10年です。

沼影小は令和10年から校舎も体育館も壊されてしまいます。思い出しの詰まった校舎を、しかも小学校が足りないのに、壊す必要があるのでしょうか。

内容中では、令和10年3月まで中学生が使った校舎を、四月一日から小学生用に換えなければなりません。説明会では、夏休み期間に階段の両側に手すりを付けるなどの話があったかと思えますが、小1と中3では体格が50センチも違います。階段や窓、黒板などの高さはどうでしょうか。遊具の設置も必要です。

沼影新校舎も同様に、2千人の学校をハード面、ソフト面共にゼロから整えていかなければいけません。しかも誰もやったことのないユニット制と「3・2年制」の組み合わせです。気の遠くなる準備が必須です。

また、沼影新校舎が開校したとしても、校庭は、沼影小の解体後一年間は整備期間となるようです。工事中の校庭で体育ができるのか、教育活動が滞りなく行えるのかと不安です。沼影新校舎には、3ユニットに分かれるといえ、同じ学年が最大で15学級ずつあります。各ユニットでは、単元が重ならないよう年間計画を調整しなければなりません。

さらに、沼影新校舎では「人工芝グラウンドと大規模開放」するとしています。その実務と安全管理は誰が担うのでしょうか。

**浦和大里小に市民プール？**

浦和大里小では新たな問題が浮上りました。今、沼影プールは取り壊し反対の声が高まっていますが、今回の説明会

明会で突然、敷地内に平屋建て屋内温水プールを作ること発表されました。令和七年から新たなスポーツ施設が用意されるまでの期間、市民プールとして併用するといっています。

現在、浦和大里小には900人以上の児童がいます。今さらえ狭い大里小の校庭は、工事期間中使えなくなってしまうのでしょうか。今後、子どもが登校している同じ敷地に、市民プールのお客さんが集まってくることも心配です。

あろうことが、すでに市教委は大里小に向き、教職員にも子どもや家庭にも説明せず、校長会理事会にもはかることもないまま、新プールの設置場所を検討し始めているそうです。

こんなに重要なことが市教委の一存で決まっています。義務教育学校の実現のために、手段を選ばない。こんなことが許されるのでしょうか。

元々は、市民プールを存続させるには沼影市民プールを壊さなければいけません。その話です。

**そもそも誰が決めたのか**

5月の説明会で市教委は、義務教育学校設置について、2020(令和2)年12月9日「都市経営戦略会議」で決定したと回答しました。

義務教育学校に関わる発議は同年12月3日。この会議の時間はたった1時間15分です。審議事項は最初から「沼影公園用地に、新設校を設置する」としてよろしいか」と始まっています(さいたま市のホームページ参照)。

市教職員組合では2021年1月に、義務教

育学校の「準備・検討、もし決定過程が記載された文書、議事録の一切」の情報開示請求をしました。この回答として、同会議に関わる黒塗りの文書と、「議事録は『存在しない』」という答えが返ってきました。

議事録について当時の担当課は、「教育委員会会議にかからないようなプロジェクトチームでの検討や、教育長の意見で決まっていくなものは録音も記録もしていない」と説明しています。

研究者の取材によると、義務教育学校創設プロジェクトチームが発足したのは2021年度だといっています。1月時点ではまだプロジェクトチームが発足していなかったということになります。

つまり、先ほどの担当課の言葉を借りて考えると、日本最大級の義務教育学校の計画は、当時の細田真由美「教育」長の意見で決まっていたことになり「だ」だったといつことになりそうです。

**大規模校解消の道筋は**

ある市民の方は不動産の目的でさいたま市に移住したそうです。今回の説明会に参加し、「義務教育学校に賛成。5年後なんて遅すぎる。もっと早く作ってほしい。別所沼の沼という字も、良くないから取ってほしい。さつき教員から反対意見が出たが、嫌なから他市に行けばいい」との意見を出しておられました。しかし、学校の設立に、誰かのお金儲けの話が絡んではなりません。これは行政も同じです。

を民間業者に丸投げし、土地価格が高いため取得が困難だと結論付けた」という事実があったのか、ぜひ知りたいところだ。

市教委は説明会で、沼影プールの代替地として沼影プールの西側にある埼玉県の用地を取得し、他にも交渉している用地があることも明らかにしました。その努力ももつてすれば、プール用地でなく学校用地を確保することができるとはいえないでしょうか。3校分の改修や取り壊し、沼影市民プールの取り壊し、大里小の温水プールの建設、新たなスポーツ施設の建設、そして最新施設を装備した大規模校舎、それらの総額はいったいいくらになるのでしょうか。そのお金をもつてすれば、土地の取得と普通の小中学校の建設が可能なのではないでしょうか。

近隣には浦和工業高校が大宮工業高校に統合される計画があります。それ自体は残念ですが、十分な広さの学校がひとつ活用できる可能性があります。

南区では近隣の小中学校の児童生徒数を緻密に割り出し、市教委に代案を提出した方がいます。

周辺学校の通学区を見直せば、大規模校が緩和されると試算している方もいます。

義務教育学校を作らなくとも問題の解決ははかれるのではないのでしょうか。

**大切なのは話し合い**

説明会では保護者の方から「子どもたちのことだから、自分の子どもを連れて参加した」「子どもも参加権を大切にしたい」と意見が聞かれてほしい」と訴えがありました。また、「学校の先生にはこの計画を知らせているのか」「教員の心が満たされないと安心して子どもを預けられない」との意見がさらされました。「新しい学校が不安で引越すのを考えている」という保護者の方もいました。

義務教育学校の資料を見た中学生は、「こんな計画おかししいよ。高学年がかわいそうだよ。ほくちがまちがえた時は先生が直してくれるけど、教育委員会がまちがえた時は誰も直せないの?」と言っていました。

市教委はこれまで義務教育学校の説明の中で、「工夫したアプローチの仕方が生まれいろいろなメリットが生まれますよ!」「活発な異学年交流で児童生徒の社会性やコミュニケーション能力を育成!」などと非現実的なメリットだけを提示してきました。

市教委が未だ私たち教職員にこの内容を知らせないのは、これが無茶な計画だと十分承知しているからではないでしょうか。

説明会の会場で「デメリットとその解決策を示さないのは、資料として最悪」という意見がありました。このまま問題点を目を背けることは、子どもたち、保護者や市民の方、そこで働く教職員を裏切ることでないでしょうか。

本間に子どもたちのための学校をつくらうとするならば、事実に基づいた情報を共有し、話し合っていく必要ががあります。先の学校説明会の動画は、その日のうちに閲覧ができなくなりましたが、ぜひ今後視聴できるようにしてほしいものです。

市教委は学校説明会で、市のホームページに質問と回答を載せていこうと言いました。私たちもこの義務教育学校の問題を自分のこととして注視し、考え、子どもにとっての最善策を探っていきましょう。

市教委やさいたま市行政に皆さんの声を届けましょう。組合でも皆さまのご意見をお待ちしています。



沼影新校舎の図書室のイメージ(写真提供 国際教養大学)